

## P-51

## 五味子と陳皮のC型肝炎感染系における相乗作用 (II) —患者血清の反応—

○丁 宗鐵, 鈴木めぐみ, 金子明代, 田口眞寿美, 森 由雄  
東京大学大学院医学系研究科・生体防御機能学

【目的】 我々は人参養栄湯がC型肝炎ウイルス(HCV)に対し低下や消失作用を持つこと, その活性を担う中心的な構成生薬が五味子と陳皮であることを報告している。しかし, これらの生薬が配合された漢方薬による治療は長期におよぶ場合が多い。漢方治療に対する反応を早期に知ることができれば患者の負担を軽減することができる。今回, 我々は患者血清中のHCVの感染力をin vitroで測定する方法を開発し, 五味子と陳皮が配合された漢方薬を中心に漢方治療の評価の応用を試みた。

### 【方法】

・材料 漢方薬未服用又は服用中のC型慢性肝炎の患者血清  
・方法 MOLT-4細胞を37℃, 5%CO<sub>2</sub>下で48時間培養し, HCV陽性血清を加え, さらに4時間培養した。その後, 患者血清と吸着, 感染させたMOLT-4細胞のウイルス量をRT-PCR法により測定した。なお, 採血日の異なる血清とMOLT-4細胞吸着の測定は同時に行い比較した。

【結果および考察】 漢方治療前のHCVは, 血清とMOLT-4細胞吸着活性と共に陽性であった。漢方治療開始後, 数ヶ月単位でHCV titer及びMOLT-4細胞吸着活性が大きく変化する症例が現われた。五味子と陳皮の配合された漢方薬による治療を開始し, トランスアミラーゼの低下がみられるなどの有効であった症例では, 血清のみと比較してMOLT-4細胞に吸着させたHCVは減少し, 場合によっては消失していた。人参養栄湯ではなく, 四物湯や六味丸に五味子と陳皮を加えて効果のみられた症例もあった。また, 漢方薬による治療中でも臨床的效果がみられない場合, 血清のみと吸着させたHCVは, ほぼ変わらない値を示した。以上, 本方法 (HCV cytoabsorption assay) によって, 患者のHCVの治療による変化をin vitroで簡便に早期に予知でき, 漢方薬の効果判定; 漢方変更利用できることが示された。